

## 第7章 事後調査の計画

事業の実施に伴う環境影響について、事後調査の必要性を検討した結果、以下に示すとおり、工事中の大気質、騒音、振動、水質、工事前の電波障害及び動物、植物、生態系について、事後調査を行うこととする。

### 第1節 環境項目ごとの内容

#### (1) 大気質

事業の実施による大気質の影響については、科学的知見等に基づいた手法により予測を行った結果、周辺環境への影響の程度は小さいものと判断されるが、工事中の建設機械の稼働時については、工事期間中にモニタリングを実施しながら工事を進める計画とし、予測結果を検証することとする。

あわせて、工作物の供用後における自動車の走行について、大気質の影響は環境基準を満足するものの、必要に応じて事後調査の実施を検討する。

#### (2) 騒音

事業の実施による騒音の影響については、科学的知見等に基づいた手法により予測を行った結果、周辺環境への影響の程度は小さいものと判断されるが、工事中の建設機械の稼働時については、工事期間中にモニタリングを実施しながら工事を進める計画とし、予測結果を検証することとする。

あわせて、工作物の供用後における自動車の走行について、騒音の影響は環境基準を満足するものの、必要に応じて事後調査の実施を検討する。

#### (3) 低周波音

事業の実施による低周波音の影響については、科学的知見等に基づいた手法により予測を行った結果、周辺環境への影響の程度は小さいものと判断されることから、事後調査は実施しないこととした。

#### (4) 振動

事業の実施による振動の影響については、科学的知見等に基づいた手法により予測を行った結果、周辺環境への影響の程度は小さいものと判断されるが、工事中の建設機械の稼働時については、工事期間中にモニタリングを実施しながら工事を進める計画とし、予測結果を検証することとする。

あわせて、工作物の供用後における自動車の走行について、振動の影響は要請限度を満足するものの、必要に応じて事後調査の実施を検討する。

#### (5) 水質

事業の実施による水質の影響については、科学的知見等に基づいた手法により予測を行った結果、周辺環境への影響の程度は小さいものと判断された。ただし、工事中の濁水の影響については、その不確実性を考慮し、モニタリングを実施しながら工事を進める計画とし、予測結果を検証することとした。

#### (6) 日照障害

事業の実施による日照障害の影響については、科学的知見等に基づいた手法により予測を行った結果、周辺環境への影響の程度は小さいものと判断されることから、事後調査は実施しないこととした。

#### (7) 電波障害

事業の実施による電波障害の影響については、科学的知見等に基づいた手法により予測を行った結果、環境保全措置を行うことで全ての予測地域において回避又は低減が図られていると判断された。ただし、予測結果の精度を上げて電波障害の影響がある保全対象を正確に抽出するため、工事の実施前に現地での受信状況調査を行うこととする。

## (8) 動物

事業の実施による動物への影響について、科学的知見や類似事例に基づいた手法により予測を行った結果、周辺への影響の程度は小さいものと判断されるが、改変区域に生息する動物について一部個体の移植を行うこととした。

オオタカについては、今後も繁殖状況に関する調査を継続するとともに、繁殖地の把握や行動圏調査を実施し、本種への影響が小さくなるよう構造、工法を検討する計画とした。

また、環境保全措置として実施する予定のボックスカルバートの設置、スロープ付側溝の設置については、その効果等を検証するため、事後調査を実施することとした。

## (9) 植物

事業の実施による植物への影響について、科学的知見や類似事例に基づいた手法により予測を行った結果、周辺への影響の程度は小さいものと判断されるが、改変区域に生育する植物について、移植の適地が確認され、移植実施可能な植物種は個体の移植を行うこととした。

また、個体の移植についての効果等の知見が乏しいため、事後調査により措置の効果を検証することとした。

## (10) 生態系

事業の実施による生態系への影響について、地域を特徴づける生態系に係る指標種の生育・生息環境の変化の程度を予測した結果、生態系に与える影響は小さいと判断された。ただし、岩屋堂のハナノキ自生地及びオオタカの生態系においては、引き続き調査を継続しながら、事業実施による本種への影響が小さくなるよう構造、工法を検討する計画とした。

## (11) 景観

事業の実施による景観の影響について、主要な眺望景観及び身近な景観についてフォトモンタージュ法及び改変区域の地形図上による重ね合わせの手法により予測を行った結果、周辺環境への影響の程度は小さいものと判断されることから、事後調査は実施しないこととした。

## (12) 人と自然との触れ合いの活動の場

事業の実施による人と自然との触れ合いの活動の場の影響について、主要な人と自然との触れ合いの活動の場と改変区域を重ね合わせ、図上解析することにより予測を行った結果、周辺環境への影響の程度は小さいと判断された。ただし、岩屋堂のシデコブシ群生地については、別途実施している水文調査の結果を基に解析を実施し、工事の実施及び土地又は工作物の存在及び供用による地下水の変化に伴う生育環境への影響を検討し、必要に応じて保全対策の検討を行う計画とする。

## (13) 廃棄物

事業の実施による廃棄物の影響について、施工時に発生する建設副産物廃棄物による影響、すなわち『切土工等又は既存の工作物の除去に係る廃棄物等』への影響を予測した結果、環境への影響は極めて小さいと判断されることから、事後調査は実施しないこととした。

表 7.1-1 事後調査計画 一覧(1)

項目	調査地点	調査方法	頻度・時期等
[ 大気質 ] 降下ばいじん調査  NO <sub>x</sub> 、SPM	予測地点  予測地点	現地調査を実施する。 ①降下ばいじん調査  自動車の走行に係る現地調査を実施する。	工事中の建設機械の稼働が最大となる時期。  工作物の供用後に 1 回実施する。
[ 騒音 ] 環境騒音  道路交通騒音	予測地点  予測地点	現地調査を実施する。 ①騒音調査 ②騒音調査	建設機械の稼働が最大となる時期。  工作物の供用後に 1 回実施する。
[ 水質 ] SS (浮遊物質量)	予測地点	現地調査を実施する。 ①水質試験 ②河川流量	濁水の発生が考えられる時期。
[ 電波障害 ] 受信状況調査	千旦林高架区域 坂本川高架区域 中洗井高架区域	戸別調査	対象道路の工事の実施前。
[ 振動 ] 環境振動  道路交通振動	予測地点  予測地点	現地調査を実施する。 ①振動調査 ②振動調査	建設機械の稼働が最大となる時期  工作物の供用後に 1 回実施する。
[ 動物 ] 重要種の移植  オオタカ調査  動向調査	改変予定区域  岩屋堂地区  事業実施区域 環境保全措置設置箇所	移植前に生息適地調査を実施し、移植可能な重要種について移植する。移植する個体は、改変区域に生息している種を適地に移植することとする。  繁殖状況調査 行動圏調査  ・環境保全措置として設置するボックスカルバートの利用状況についてセンサーカメラを用いて調査する。  ・環境保全措置として設置予定のスロープ付側溝の効果の検証を行うため、センサーカメラ等を用いて調査する。	工事着手前で、かつ対象種の生態に応じた適切な時期。  工事の実施前から工作物の供用後にかけて実施。 工作物の供用後に 1 回。  工作物の供用後に 1 回。

表 7.1-1 事後調査計画 一覧(2)

項目	調査地点	調査方法	頻度・時期等
[ 植物 ] 重要種の移植	改変区域	移植前に移植候補地の調査を実施し、移植可能な重要種の移植を実施する。なお、移植は環境保全措置に基づき実施する。	工事の実施前で、かつ対象種の生態に応じた適切な時期に実施
重要種の種子及び実生の移植	改変区域	改変区域に生育する重要種（サクラバハシノキ、シデコブシ等）の種子及び実生が確認された種について、環境保全措置に基づき実施する。	工事の実施前で、かつ対象種の生態に応じた適切な時期に実施。
移植種の生育調査	移植先	播種及び移植先の個体の定着状況を環境保全措置に基づき実施する。	移植から半年後、1年後、3年後
水文調査	ハナノキ、シデコブシ群生地 ・岩屋堂地区 ・坂本地区	現地調査及び水文解析を実施する。	工事の実施前から工作物の供用後にかけて現地調査を実施する。 水文解析は、工事の実施前に行う。
[ 生態系 ] 水文調査	岩屋堂のハナノキ自生地	現地調査及び水文解析を実施する。	工事の実施前から工作物の供用後にかけて現地調査を実施する。 水文解析は工事の実施前に行う。
オオタカ調査	岩屋堂地区	動物で実施する内容と同様。	動物で実施する内容と同様。